



地球は、太陽からのエネルギーで暖められます。暖められた地球からも熱が放射され、地球を包んでいる大気に含まれる二酸化炭素などの温室効果ガスは、この熱を吸収して地表に再び戻しています(左図参照)。そのおかげで、地球の平均気温は約15℃と、生物が生きるのに適した環境が保たれているのです。

このように、温室効果ガスは本来なくてはならないものですが、その濃度が高まると、熱の吸収が増えて気温が上昇し、地球が温暖化するのです。

地球温暖化はどうして起こるの？

地球温暖化が進むとどうなるの？

このまま地球温暖化が進むと、2100年には、最大で平均気温が5・8℃、海面は88cm上昇すると言われていて、気温が3℃上昇すると、長崎県は奄美大島と同じ亜熱帯気候になります。また、海面の上昇によって日本では8割以上の砂浜が失われる恐れがあり、わたしたちが現在見慣れている九十九島の景観も

温室効果ガスはなぜ増えるの？

温室効果ガスには、二酸化炭素やメタン、フロン類などがありますが、最も温暖化への影響が大きいのは、二酸化炭素です。では、二酸化炭素はどうして増えてきたのでしょうか。これは、二酸化炭素は植物や海に十分吸収されることで、地球全体のバランスがとれていました。しかし、1750年ごろから始まった産業革命以降、人間は石油や石炭などの化石燃料を大量に使うことで、大量の二酸化炭素を出すようになり、大気中の二酸化炭素の濃度は、1750年と比較すると30%以上増加しています。

温室効果ガスはなぜ増えるの？

## 地球温暖化を知ろう

地球温暖化を抑制するための「京都議定書」って何？

1997年、京都で開催された「地球温暖化防止京都会議」において、2008〜2012年の間に、先進国全体の温室効果ガスの人為的な総排出量を、1990年のレベルより全体で5%以上削減する約束がなされました。これが「京都議定書」で、ことし2月16日に発効しました。京都議定書では、先進国各国の削減約束が定められ、議定書に批准した国はそれを守ることが義務付けられます。日本は、2002年6月に批准し、1990年のレベルと比べて6%削減する必要があります。世界の主要な二酸化炭素排出国を

将来変わってくるかもしれない。さらに、洪水や干ばつなど異常気象の多発、気候の変化による農作物や水産物の減少、温暖な地域に多かったマラリアなどの伝染病の流行など、さまざまな被害の恐れがあります。急速な温暖化の進行は、これ以外にも、わたしたちが予測することのできない影響をもたらす可能性があるのです。

将来変わってくるかもしれない。

## 美しい環境を 未来の子どもたちへ

「地球温暖化」という言葉を最近よく耳にしませんか？

地球の平均気温は現在約15℃でバランスよく保たれています。しかし、わたしたち人間が便利で豊かな生活を求めて大量の石油や石炭を使い続けた結果、二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、それが原因で地球上の気温は少しずつ上昇しています。

真夏日や熱帯夜の日数の増加、大雨などの異常気象の発生、サクラをはじめ植物の開花時期の変化など、地球温暖化によるものと考えられる影響が、わたしたちの身近なところでもすでに感じられます。

地球温暖化をはじめとする環境問題の多くは、日常生活や事業活動が原因となっていて、その解決のためには、わたしたち一人ひとりが取り組みなければなりません。

未来の子どもたちに美しい環境を残すために、わたしたちは何をしなければならないのでしょうか。今回は、6月の「環境月間」にちなみ、地球温暖化を中心に、環境について特集しました。

